

■ 収録機能

GPS信号による正確な時刻管理

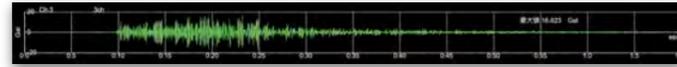
GPS信号に含まれる極めて正確な時刻情報に「毎秒」同期しています(※1)。Centoで収録された地震波形データであれば、世界中どこに設置されたものであろうとも1000Hzサンプリング(0.001秒)レベルで見比べても時刻のズレがありません。

※1 CentoにGPSアンテナが接続され測位している状態の時

過去1年間(※2)の震動記録を保持

常に震動波形データを収録し続けており、その連続記録の中から任意の時間の震動記録を過去に遡って確認することができる「後トリガ機能」を備えています。

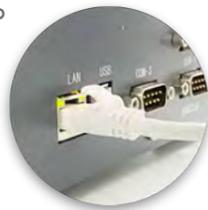
※2 18ch 100Hzサンプリング収録で、健全性データ連続記録未保存時



■ 外部機器との連動

豊富な外部出力を標準装備

AccuSEIS Omniが備えていたLANやRS-232C接続による地震データ伝送規約を踏襲。さらに多数の演算結果を含んだ新たなデータ伝送規約も装備しました。



パソコンレスでプリンタを制御

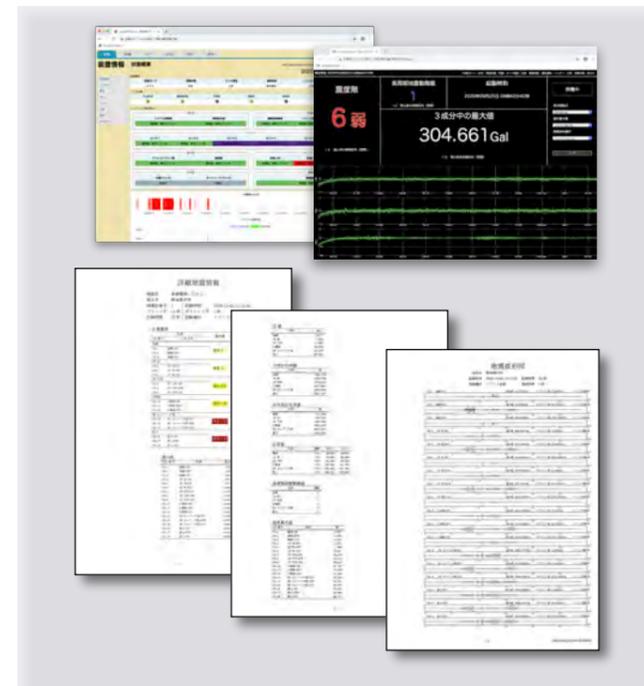
パソコンを介さず、ネットワーク接続されたPostScript対応プリンタに印刷出力が可能。最大値一覧や計測震度、SI値、応答値、長周期地震動階級などの演算結果だけでなく、地震波形図の印刷も可能です。

■ ユーザーインターフェース

専用ソフトウェアは不要

全ての設定や操作、地震記録の確認をネットワーク接続されたパソコンのブラウザ(※5)から行うことができます。地震波形データのテキスト変換(数値化)も専用ソフトウェアを使用せずにブラウザ上の操作だけで行えます。

※5 推奨ブラウザ Google Chrome Ver.71.0.3578.98以降



メール配信機能(※6)を搭載

地震発生時はもちろん、Centoの状態変化時、状態の日報をメールで配信(最大50アドレスまで)することができます。メールには波形図(PDF)や波形データ(WIN32データ)を添付することも可能です。

※6 Centoから接続できるメールサーバが必要です

スマートフォンやタブレットから



Wi-Fi 親機(※7)を内蔵しており、お手持ちのスマートフォンやタブレットからもアクセス可能です。

※7 IEEE802.11g (2.4GHz)規格
セキュリティ「WPA2-PSK」対応の機器が必要

表示・操作・データ回収

USBポートを装備し、USBメモリ(※8)を接続することで、予め設定しておいた期間の地震データを自動でコピー(回収)できます。



※8 FAT32もしくはexFATでフォーマットしたもの

■ 信頼性の確保

システムの健全性確認と記録

Centoだけではなく、接続されるADCや専用検出器AccuSEIS203の、内部電圧・温度、装置ステータスを確認することができます。(Centoは16種類の内部電圧・温度と24項目のステータス。ADC/203は12種類の内部電圧・温度と15項目のステータスが確認できます)

これらが異常値の場合は、接点を出したりメール配信(※3)を行うことができ、システム故障の前兆を未然に捉えることができます。また健全性に関する情報は震動記録と同時に連続記録として残すことも可能。地震データが収録された時のシステムの状態を後から地震波形データと並べて検証できます。

※3 Centoから接続できるメールサーバが必要です

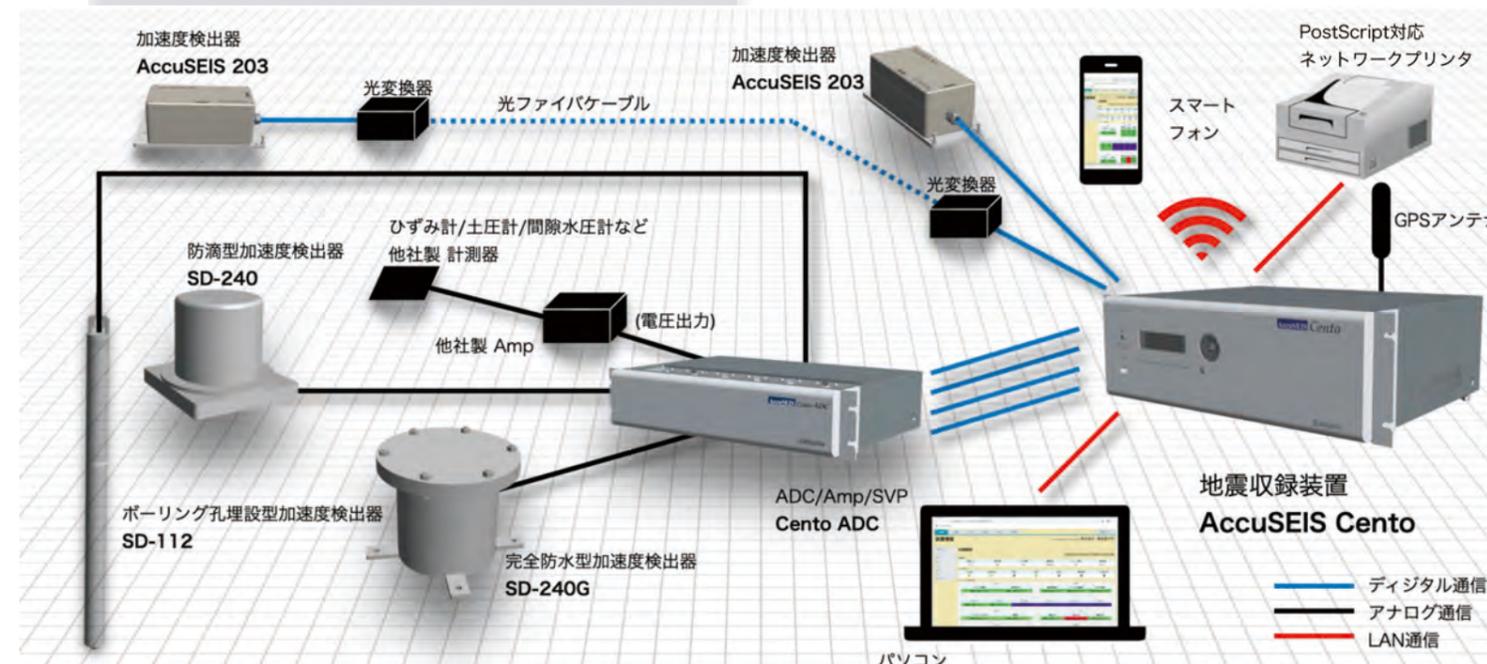
地震記録の保存

記録媒体にはSSDを採用。振動や衝撃に強くCentoが震度7の地震で揺れていても地震を記録し続けます。さらにオプションとして、SSDを増設してミラーリングすることや、産業用の高信頼性SSD(※4)への変更も可能です。

※4 記録容量が標準SSDの1/4になります



精密二軸振動試験装置



機器仕様		AccuSEIS Cento	
型式	チャンネル数	最大18成分	
	サンプリング周波数	100Hz・200Hz・500Hz・1000Hzから選択	
収録	フィルタ	4方式から選択 1) 6次バターフース近似 (カットオフ周波数: 15Hz, 30Hz, 60Hz, 100Hz, 150Hz, 200Hz, 400Hz) 2) 最小位相FIR (カットオフ周波数: 30Hz) 3) 直線位相FIR (カットオフ周波数: 15Hz, 30Hz, 60Hz, 150Hz) 4) フィルタなし	
	時計	時刻同期方法: GPSまたはNTP 時刻精度: GPS同期時 ±10μ秒以内(ADCサンプル同期精度/GPS測位時) NTP同期時 ±1m秒以内(GPSに同期したNTPサーバと同一ラックの場合)	
	演算処理	うるう秒対応: GPS測位時またはNTPサーバ同期時にうるう秒対応 演算データ: 最大値、3成分ベクトル合成最大値、水平成分ベクトル合成最大値、計測震度、SI値、応答値、卓越周波数(全検出器分)、長周期地震動階級、最大速度値(全検出器分) 震度演算アルゴリズム: 気象庁方式 震度演算方式: 常時10秒毎に演算を実施	
	トリガ判定処理	トリガソース: 振幅値、計測震度、3成分合成、水平成分合成、装置のステータス、ネットワークトリガ トリガ方式: 各トリガソースの判定レベルおよび判定論理式(チャンネルおよびAND/ORの組み合わせ)により判定 トリガ動作: 記録、接点出力、データ伝送、メール送信	
記録媒体	容量	標準SSD/256GB (18ch、サンプリング周波数100Hz時、1年間の波形データを記録可能)	
	多重化	ミラーリング(オプション)	
記録部	記録	連続記録: 波形データ 全チャンネルの連続データを記録(1~10分の任意設定時間毎に記録) 常時演算データ 3成分ベクトル合成、水平成分ベクトル合成、計測震度、卓越周波数(全検出器分) 健全性データ 電源・電圧状態、装置内温度、収録部一検出器通信状態 イベント記録: 波形データ トリガ前後の任意設定時間を記録 演算データ 最大値、3成分ベクトル合成最大値、水平成分ベクトル合成最大値、計測震度、SI値、応答値、卓越周波数(全検出器分)、長周期地震動階級、最大速度値(全検出器分) 即時校正: 即時に校正記録を実施 即時記録: 即時にデータ収録を開始 日時記録: 指定日時に校正記録を開始(毎月/日/時 繰り返し動作指定可能) 日時記録: 指定日時にデータ収録を開始(毎月/日/時 繰り返し動作指定可能) 後トリガ: 指定日から指定時間の地震記録を過去1年前まで遡って記録可能 その他記録: 動作履歴、設定履歴	
	記録形式	波形データフォーマット: WIN32形式 データ回収方法: リムーバブルディスク(USBメモリ(FAT32またはexFAT)) ネットワーク(リモートPC上のWEBブラウザでダウンロード) ネットワークドライブ(ネットワーク上の共有ドライブ) D-sub9ピン(オス) x3 (うちメンテナンス用x1)	
	外部出力	シリアル	RJ-45 x1 (1000BASE-T、TCP/IP、UDP/IP、SSH、ソケット通信)
		イーサネット	TCP/IP(http、ssh)
		イーサネットプロトコル	無線LANx1(標準: IEEE802.11g)
		USB	Aタイプx2(USB2.0)
	接点出力	無電圧A接点x4 以下の接点出力する(下記以外にも装置内ステータスを任意選択可・以下は設定例) 1) 地震発生でON、記録終了時にOFF 2) センサ(ADコンバータ)エラー時にON、正常時OFF 3) 時刻同期はずれ時にON、同期でOFF 4) 校正記録異常時にON 5) AC100V通電中にOFF、停電検知時ON、復電時OFF 接点容量: DC30V・1A(最大) 耐電圧: 接点部とコイル間AC1800Vにて1分間(10mA以下) 接点間AC750Vにて1分間(10mA以下) 出力端子: 端子台(M3)	
	ユーザ/F	WEBブラウザ: 状態画面、記録一覧画面、ログ画面、設定画面、メンテナンス画面、パスワード認証画面、管理者画面、波形表示機能、ダウンロード機能、収録装置状態表示等 フロントパネル表示: 運用状況、USBメモリ保存、収録装置基本設定(確認・設定表示)	
	補助機能	簡易NTPサーバ: ネットワーク経由でパソコンの時刻合わせ(GPS/RTC動作モード時に限る)	
	通信	外部通信: TCP/IPデータ伝送、シリアルデータ伝送、総合河川情報データ伝送、Centoデータ伝送、IDCデータ伝送、気象庁検定データ伝送(シリアル/LAN)、WIN32データ伝送	
電源	入力: AC100V±10%(50/60Hz)、DC+11V~17.5V(起動時は12.9V以上) 出力: 弊社機器接続用 停電補償(18ch時): (バッテリー初期状態、満充電、周囲温度25°C、CentoADCを6ユニット接続時、ディスプレイ消灯、外部電源未接続時)		
環境条件	使用温度: 0~50°C 使用湿度: 80%RH以下(結露なきこと)		
寸法	480(W)x350(D)x149(H)mm(ラック取付金具含む、その他突起部除く)		
重量	約11kg		

加速度検出器 AccuSEIS 203	型式: AccuSEIS 203 測定成分/方式: 加速度(水平2方向、上下1方向(3ch組込))、フォース・バランス・サーボ方式 A/D変換: 分解能24bit、サンプリング周波数1000Hz、サンプリングスキャー10μ秒以下(ADCサンプル同期精度/GPS測位時) 測定ケーブル: KPEV-SB 0.5SQx5P(最大500m)、光ケーブルオプション対応 環境性能: IPx7(防滴型)、周辺温度-10~50°C使用可能(※寒冷地仕様版-20~50°C) 寸法: 300(W)x120(D)x113(H)mm、約3kg
------------------------	---

AD変換器/FBアンプ/SVP Cento ADC	型式: Cento ADC 対応検出器: SD-240、SD-240G、SD112、その他電圧出力センサ A/D変換: 分解能24bit、サンプリング周波数1000Hz、サンプリングスキャー10μ秒以下(ADCサンプル同期精度/GPS測位時) FBアンプ: 出力感度5mV/Gal(※2000GalフルスケールFB型加速度検出器との組合せによる) 耐雷機能: 直流放電開始電圧90V±20%(100V/s)、インパルス放電開始電圧600V(1kV/μs) 環境条件: 周辺温度: 0~50°C(80%RH以下 結露なきこと) 寸法: 約55(W)x179(D)x79(H)mm(ラック収納ケース 約430(W)x300(D)x99(H)mm、Cento ADC 6ユニットまで収納可)
------------------------------	--

※仕様は予告なく変更することがあります

次の100年を記録する地震収録装置

AccuSEIS Cento

全ての記録はいつでもそこに

アキュサイス

セント

時代を変えたネットワーク対応地震収録装置 AccuSEIS Omni の正統な後継機として、基本機能を充実させ、さらに新たな機能を追加しました。



Katsujima

with seismometers since 1918

地震観測と共に100年。

「使える」地震データを確保する。

私たちはそのために必要な機能を追い求め続けています。

Katsujima



株式会社 勝島製作所

〒125-0063 東京都葛飾区白鳥4-16-18
TEL: 03-3603-7111
FAX: 03-3603-7180
E-mail: sales@katsujima.co.jp
https://www.katsujima.co.jp



製品情報は
こちらから

●取扱代理店